

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（平成27年度後期）

平成28年1月20日（水）作成

校長 海野 武仁

記述者 教頭 岸本 貴志

学校教育目標 「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- | | | |
|---|---|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を持って「自ら学ぶ生徒」・・・・・・・・・・知 ・豊かな感性と思いやりのある「心豊かな生徒」・・・・・・・・情 ・何事にも全力をつくしてやり抜く「よく働く生徒」・・・・意 ・生命を尊重し、心身共に健康な「体を鍛える生徒」・・・・体 | } | 生きる力 |
|---|---|------|

学校経営方針 生徒一人一人の「生きる力の育成」へ向け

- ・学ぶ意欲を高める教育課程の編成
- ・個性を伸ばす教育の充実
- ・よりよい生き方を求める道德教育の実践
- ・人権や福祉の尊重、国際交流を切り口とする国際感覚に満ちた生徒の育成
- ・生涯学習社会にふさわしい地域に開かれた学校づくり
- ・上記の実現を図る教職員の資質の向上

1 全体評価

- *前期と同じ46の質問項目によるアンケート形式で全教職員（37名）から回答を得た。
- ・前期と同様、すべての項目においてA評価又はB評価が最も多い回答割合であった。
 - ・A評価が最も回答割合が高かったのは33項目〔前期33項目〕、B評価が最も回答割合が高かったのが13項目〔同16項目〕であった。
 - ・全46項目中44項目で、肯定的回答率（A評価とB評価の合計）が9割以上となり、前期より8項目増えた。また、肯定的回答率が9割に届かなかった2項目も、9割に近い数値であった。
 - ・前回と比較して5ポイント以上の上昇が見られたものが15項目あり、前期の課題が改善されつつある。特に、学校経営や学校運営、学習指導に関わる項目で、課題の改善が見られる。また、前期の課題でもあった学習指導に関わる項目でも改善が見られる。
 - ・生徒アンケートの結果を見ると、5ポイント以上前期より下がったものが7項目あり、分析をし、改善していく必要がある。
 - ・全体的には、前期の課題が改善される傾向にはあるが、成果と課題を全職員で共有し、さらなる実践を積み重ねていかなければならない。

後期自己評価で、改善または継続が必要な内容を挙げてみると、

① 学校教育目標・学校経営について

- ・PDCAサイクルに基づく実践が浸透しつつある。学校教育目標の実現に向け、校長の経営理念や経営方針に対する理解をさらに深め、計画に基づき、実態に合わせた実践を継続する。

② 学校運営について

- ・職員会議が教育活動全般における共通認識、相互理解、協力体制を築く場となっている。また、全教職員が学校運営への参画意識を持ち、各自の実践が組織の中でより機能していくようにする。

- ・校内研究の目的や意義を全職員で再確認し、組織的な研究が個人の実践に生かせるようにしていく。また、個人の実践が組織研究に生かせるようにしていく。

③ 学習指導について

- ・授業改善や家庭学習への取り組みは一定の成果が見られるが、更に充実させていく。
- ・基礎基本の定着や学ぶ意欲を喚起する授業づくりを継続して行う。
- ・個に応じた授業，わかる授業づくりを推し進め，一人一人に確かな学力を身につけさせる。

④ 生徒指導について

- ・情報の共有を積極的に行い，指導方針の共通認識を図り，組織的な取組を強化する。
- ・課題や問題に対する素早い対応を今後も継続する。
- ・課題を抱えている生徒や家庭に対し，外部機関との連携を含め，粘り強い指導を継続する。

⑤ 地域との連携について

- ・学校ホームページ（HP）の充実をさらに進め，学校からの情報発信を積極的に行う。
- ・保護者や地域の願いに耳を傾け，期待に応えられるよう，開かれた学校づくりを進める。

⑥ 学校の特色について

- ・鍛練，合唱，読書活動，リサイクル活動など，本校の特色として行っている教育活動については，毎年，同じ形式で実施するのではなく，PDCAサイクルを意識しながら，地域や本校の実態に即した活動となるようにしていく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標や指導重点に基づいた教育活動が行われている。全教職員が校長の経営方針のもと，課題意識や参画意識を持って教育活動を行っている。 ○PDCAサイクルに基づいた教育活動が全教職員に浸透しつつある。計画に基づき，実態に即した教育実践を今後も継続していく。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の具現化を目指し，あらゆる活動でPDCAサイクルを取り入れた教育活動を行い，改善，向上をを意識した学校運営を行っていく。 ・校長の推し進める教育方針のさらなる浸透を図る。その実現のために個々の教職員が創意工夫ある実践を行うことで，学校の活性化を図っていく。

II 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○防災，防犯，情報漏洩等，危機管理意識の高まりが見られる。 ○職員会議を通して教職員間の共通認識・協力体制が確立され，学校運営に対する参画意識も高まっている。 ○報告・連絡・相談・確認が日常的に行われ，縦・横の連携ができています。 ○校内研究に主体的に関わる割合が前回よりも大きく上昇している。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練や研修を通して教師の危機管理意識を高め，いざという時に適切な判断と行動ができるよう，自己判断力や実践力をさらに高めていく。 ・今後も，「報連相確」を大切に，共通理解のもとで協働して教育活動を行う。

Ⅲ 学習指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着を重視し、学ぶ意欲を育てる授業づくりを継続的に行っている。 ○学ぶための集団づくりに力を入れている。 ○校内研究と関連づけ、家庭学習の充実へ向けた取組や、習得・活用を意識した授業づくり、授業改善が進みつつある。 △生徒一人一人に学ぶ楽しさを実感させ、わかる授業、意欲を引き出す授業づくりをどう行うか、さらに学校として取り組む必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートからは、「授業が楽しい」「授業がわかる」「授業中に発言や発表をする」と答えた割合が前期より低くなっていることを踏まえ、生徒の学習実態を的確に分析し、わかる授業や学ぶ意欲を育てる授業づくり、授業改善の取組を継続する。 ・家庭学習の充実や主体的な学習習慣の確立に向けた取組を、学校が一丸となってさらに進めていく必要がある。

Ⅳ 生徒指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な方法で生徒とのコミュニケーションを行い、生徒理解に努めると共に生徒指導に生かしている。 ○いじめ問題については、組織的な対応で未然防止と早期発見に努めている。また、認知した事案については組織的な対応で早期解決ができています。 ○様々な事案に対し、校内対応だけでなく、外部機関とも連携した取り組みが積極的に行われている。 ○個々の生徒の健全な成長を念頭に置きながら、集団指導や個別指導が適切に行われている。 ○個々の事案に対し、集団指導や個別指導等、担任や学年職員を中心に粘り強く行っている。 △職員間での生徒指導上の課題を共有した対応が前期より下がり、改善が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に寄り添いながら生徒理解に努め、対処療法的な指導だけでなく、未然防止や生き方指導、進路指導など、積極的な生徒指導を行う。 ・いじめの未然防止と早期発見・早期対応ができるよう、日常的にアンテナを高くし、生徒の状況把握に努める。また、対策委員会等の機能を充実させていく。 ・不登校については、家庭との連携を大切にし、状況把握に努めるとともに、粘り強く関わっていく。 ・課題を抱えている生徒に対しては、保護者や関係機関との連携を密にし、粘り強く働きかけを続けていく。 ・「報告・連絡・相談・確認」を確実にし、生徒指導上の課題を全職員が共有し、迅速かつ適切に対応していく。 ・これまでと同様に、声かけや相談活動を継続する。生徒に寄り添い、生徒理解を深め、状況に応じて適切にアドバイスできる教師でありたい。時には厳しく、時には優しく、一つ一つの積み重ねが生徒や保護者、地域との信頼関係を深める。このことを踏まえ、生徒一人一人の学校生活の一層の充実を図っていく。

V 地域との連携について	
達成状況	<p>○学校HPを見直し、更新回数を増やしたことにより、HPの閲覧者が増加した。また、各種たよりの発行等、学校の情報を積極的に発信している。</p> <p>○人権啓発出前講座、敷島地区保護司会によるあいさつ運動など、地域の教育力を生かす活動が行われている。</p> <p>○年輪祭、合唱祭などを地域住民にも公開し、本校の教育活動を知ってもらう機会となっている。</p> <p>○本校のPTA活動の一つの特色である「一人一活動」への協力では、のべ700人以上の協力が得られ、各活動が円滑に実施された。その他、保護者参加行事へも積極的な参加があり、保護者も協力的である。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動に教職員が積極的に関わることで、保護者や地域との連携をさらに深める。 ・HPは、地域住民や一般の方に学校の様子を発信する上で、極めて有効な手段であるので、今後も充実を図っていく。また、多くの方に閲覧していただけるよう、アピールしていく。 ・保護者の声や要望を聞く機会と場をさらに充実させ、それに応えられるような学校運営を行っていく。 ・保護者や地域住民に対する学校解放の機会はまだまだ少ないので、今後検討する中で回数を増やし、敷中教育への理解を一層深めてもらう。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>○前期と同様に高い肯定率となっている。合唱活動、リサイクル活動など、本校の伝統を活動を大切にし、継続した取組が行われている。</p> <p>○授業参観、年輪祭、合唱祭などへの参加協力など、学校の教育に対する理解と協力が得られている。</p> <p>△朝読書への取り組みは力を入れているが、生徒の読書量は依然低い水準にとどまっている。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の約3割は「読書をしない」と答えている実態があるので、まずはこれらの生徒が短い時間でも読書をする習慣がつけられるよう、国語科、委員会活動等と連動して取り組む。

3 まとめ

<p>〈成 果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長の経営方針のもと、学校教育目標の具現化に向け、全教職員による組織的な教育活動が行われ、前期の自己評価で明らかになった課題が改善されてきている。特に、学習指導については、習得・活用、家庭学習の充実など、校内研究とリンクさせた取り組みが改善につながっている。今後も継続した取組をしていかなければならない。 <p>〈課 題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学校評価の結果を踏まえ、本校の課題及び改善策を全教職員が共有し、全教職員が学校運営への参画意識を持って改善の取り組みを行っていく。 ・PDCAサイクルを基調にし、その中で各活動の評価・反省を丁寧に行い、より充実した教育活動を行う。課題に対しては組織をフルに活用して改善、向上を目指す。 ・保護者、地域と学校の連携をさらに推進し、開かれた学校づくりを一層進める。
